

トップメッセージ



代表取締役社長
社長執行役員

内倉昌樹

ステークホルダーの皆様へ

当社は1946年の創業から75年目を迎えました。創業者である丸山正武は軍医学校の教官時代にイオン交換樹脂を用いた飲料水確保の研究に携わったことをきっかけに「無熱式蒸留装置」を開発し、オルガノを創業しました。我々の社名は丸山が可能性を信じたイオン交換樹脂の学名である「オルガニックゼオライト」を由来としています。

我々は創業から「水の価値の創出」・「分離精製技術の追求」を進めてまいりました。創業期は戦後の極端なエネルギー不足の中で加熱せずに蒸留水(純水)を得られる技術が注目を集めました。その後、設備の大型化や連続処理など大量の水を使用する技術が求められた高度経済成長の時代を経て、公害の防止や水のリサイクル・排水からの有価物回収などの技術や、水の純度の限界に挑戦する半導体など最先端分野での高度精製、海外での事業展開やソリューションサービスへのニーズなど、時代とともに多様化するニーズに応えてきました。

国際連合が採択したSDGsの2030アジェンダには17のゴールと169のターゲットが掲げられています。当社の事業と直接的に関わる「安全な水と衛生の確保」が第6番目の目標とされていますが、生命の維持に必須の要素である水は、食糧の確保や陸上・海上の生態系の維持、都市や産業の発展、健康・医療分野の発展などにも深く関連しており、安全な生活の基盤として不可欠であることを考えると、その他の社会的な目標も含めたすべての項目に関わりがあるものと考えています。

創業から一貫して「水」に関わっていること、水処理で培った技術を核に事業を進めていることを我々は誇りに思っています。

水の価値と機能を最大限に生かすこと。豊かな暮らしと水環境の保全を両立させること。これまでも、これからも、それがオルガノの使命です。

中長期的な事業の方向性

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、世界的なレベルで経済活動や市場構造だけでなく人々の行動や考え方にまでも大きな影響が出ています。これからのオルガノが向かう事業の方向性は、こうしたWith Coronaの時代における変化に沿って考える必要があります。また「水」に関わる我々は、気候変動やSDGs目標などの社会的な役割をどのように果たしていくかも重要なポイントと考えています。

当社の主要市場である電子産業分野は、半導体需要を中心に堅調な推移がみられていますが、自動車やスマートフォンの販売の低迷が続くことで投資が停滞することも考えられます。しかしながら、中長期的に考えると5Gなど新たな通信技術を活用した新たなビジネスや医療・教育、エンターテインメントなどの分野の成長によって、半導体や電子部品の役割はさらに拡大することが期待できます。また、これまで取り組んできた水処理技術だけではなく、チップの微細化・高性能化に伴って半導体製造に使用する薬液や溶剤などの高度分離精製にも注目が集まっており、我々にとっても大きなビジネスチャンスとなる市場と考えています。

また、電気自動車の拡大によって伸長が期待されるリチウムイオンバッテリー市場や、新型コロナウイルス向け

のワクチンや治療薬でも注目を浴びるバイオ医薬品の分野などに向けても新たに当社の分離精製技術の展開を進めており、こうした分野への展開を通じて気候変動への対応や省エネルギー、ライフサイエンス技術の発展への貢献と成長を両立させていくことが大きな方向性になると考えています。

一方で、一般産業分野や機能商品事業については、医薬品製造用の水処理設備や医療・検査機向けの水処理機器、除菌・消臭用の殺菌剤など成長が期待できる分野もありますが、全体的には世界的な消費の低迷によって生産や投資の水準が落ち込む可能性もあります。また、電力分野では世界的に原子力や石油・石炭火力などから風力・太陽光など再生エネルギーへの移行が進んでおり、上下水分野でも大きな成長は期待できない状況です。こうした分野はこれまで安定した収益源として期待していた分野ですが、市場環境の変化に合わせ事業体制やラインアップなどの見直しに取り組んでいく必要があります。

当社の納入・生産体制に目を向けると、設備の建設工事や納入設備の運転管理・メンテナンスなど現地・現場での作業が不可欠な業務が多く残る中で、設備のリモートでの監視や無人運転などのニーズはますます高まってい

ICT (情報通信技術) 活用



水処理設備の建設や設備診断などお客様工場における現場作業の効率化に向け、タブレットPCを導入。図面や技術情報、装置状況を即時に共有し、作業時間を短縮。

スマートグラス導入



プラントの建設や設備診断にスマートグラスを導入。現地情報を遠隔地からも共有できることでスピーディーな現場支援を実現。お客様との情報共有や海外での利用に適用範囲を拡大。

トップメッセージ

ます。また、今回のコロナ禍の状況では、海外のプロジェクトなどで日本からのエンジニアの移動制限が営業活動や工事スケジュールに影響するケースも散見されました。こうした状況の中で、これまでもセンサーやIoTなどの技術を活用した装置の遠隔監視システムや、スマートグラスを活

用したリモートでの設備診断、指導技術などの開発を進めてきましたが、今後さらにリモートでのコミュニケーションを前提とした情報インフラの拡充や、デジタル技術と設備の保守・点検などソリューションサービスの融合など今まで以上に取り組みを加速する必要があると考えています。

回収率水処理システムの構築など競合他社の追随を許さない最先端の分離精製技術の開発を進めていきます。

ソリューションサービスの強化

ソリューションサービス分野では、設備の運転データを収集・蓄積するデータセンターの開設や、ICT/AI技術を活用して収集・解析したデータに基づく提案型のソリューションサービスの強化など、プラント・機能商品をセンサーやIoTで組み合わせた新たなソリューションサービスの創出によって顧客価値の拡大を図っていきます。また、半導体の生産拡大が続く中国など海外でのサービス体制の強化も進めていきます。



中期経営計画の進捗

● 前期決算の評価

2020年3月期は前期に続いて過去最高の売上高を計上し、2006年以来となる最高益を記録するなど非常に好調な決算となりました。台湾でのロジック分野の最先端投資や国内でイメージセンサーなどの大型投資など電子産業分野で活発な投資が続いたことが背景となっています。利益面では国内・台湾の大型プロジェクトのコストダウン効果が前期に大きく実現したこともあって高い利益率を達成する結果となりましたが、これまで重点分野として力を入れてきた機能商品やソリューションビジネスの売上拡大によってベースとなる利益が積みあがってきたことにも手ごたえを感じています。

ており、特に半導体関連の大型設備投資の動向が業績に大きく影響するため、中期経営計画は毎年3ヶ年の計画をローリングして作成しています。今回の中期経営計画は、ポラティリティの大きな電子産業の投資規模を一定の水準と置いた上で、安定的な業績が期待できるソリューションビジネス・機能商品事業・新規事業の創出に軸足を置いた計画になっています。

新規事業の創出

新規事業の創出に向けては、当社の持つ高度な分離精製技術をリチウムイオンバッテリー・バイオ医薬・先端半導体などの市場に展開し、新たな収益の柱となる事業の創出を目指します。昨年までに事業化に向けて客先や外部の研究機関との共同実験などに取り組んできましたが、新たな中期経営計画では技術研究費や開発人材などの経営資源を重点的に配分して早期の事業化につなげていきます。

さらなる取り組み

グローバルレベルでのエンジニアリング体制の強化に向けて、アジア地域にグローバルエンジニアリングセンター（GEC）の設立を進め、エンジニアリング業務の効率化・コストダウンによる、生産能力（キャパシティ）・収益性の拡大を目指します。

従来から取り組んできた生産性の向上と働き方改革については、今後もさらにペーパーレス化への取り組みやICT技術の活用など業務改革の推進を行っていきます。

● 中期経営計画

当社は売上高の50%以上を電子産業市場に依存し

● 重点分野

電子産業分野の拡大

電子産業分野では、進展する最先端半導体の技術開発ロードマップを踏まえたマーケティング体制の強化に加え、半導体チップの微細化などに伴って高度化する顧客のニーズに応えるため、超純水のさらなる高純度化や電子材料・溶剤などの精製、水資源の有効活用に向けた高

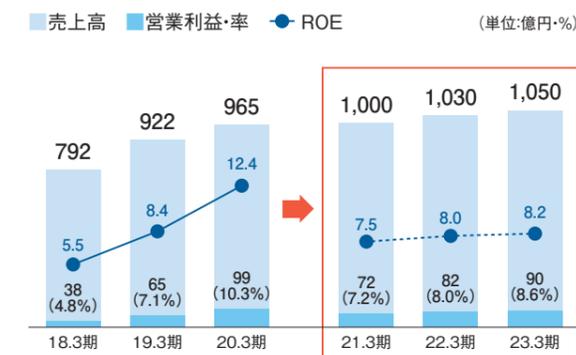
持続可能な発展に向けて

水処理を事業の核とする我々は、水を有効利用しながら環境を損なわない健全な経済発展に寄与すること、そのループを国内だけでなく海外、特に水資源の乏しい地域や急激な経済発展によって環境保全が必要となっている地域に拡大していくことが、当社に求められる役割と考えています。具体的には、工場などで排出される排水からフッ素などの有価物を回収し再利用する「エコクリスタ」や、MBR方式を採用し排水からの効率的な水回収を実現する「オーファスシリーズ」、ヒートポンプ技術を利用して

効率的に水の熱を回収利用する「水熱利用システム」などの開発に取り組んでいます。

また、「廃棄物の削減と省エネの推進」の取り組みを各地の事業所や建設現場で進めており、多様な個性やバックグラウンドを持つ従業員の採用・育成を進める「ダイバーシティへの取り組み」、調達先とともにSDGs目標の実現に向けて取り組む「サプライチェーンにおけるCSRの推進」などの取り組みを進めています。

○ 中期経営計画



○ 中計売上計画

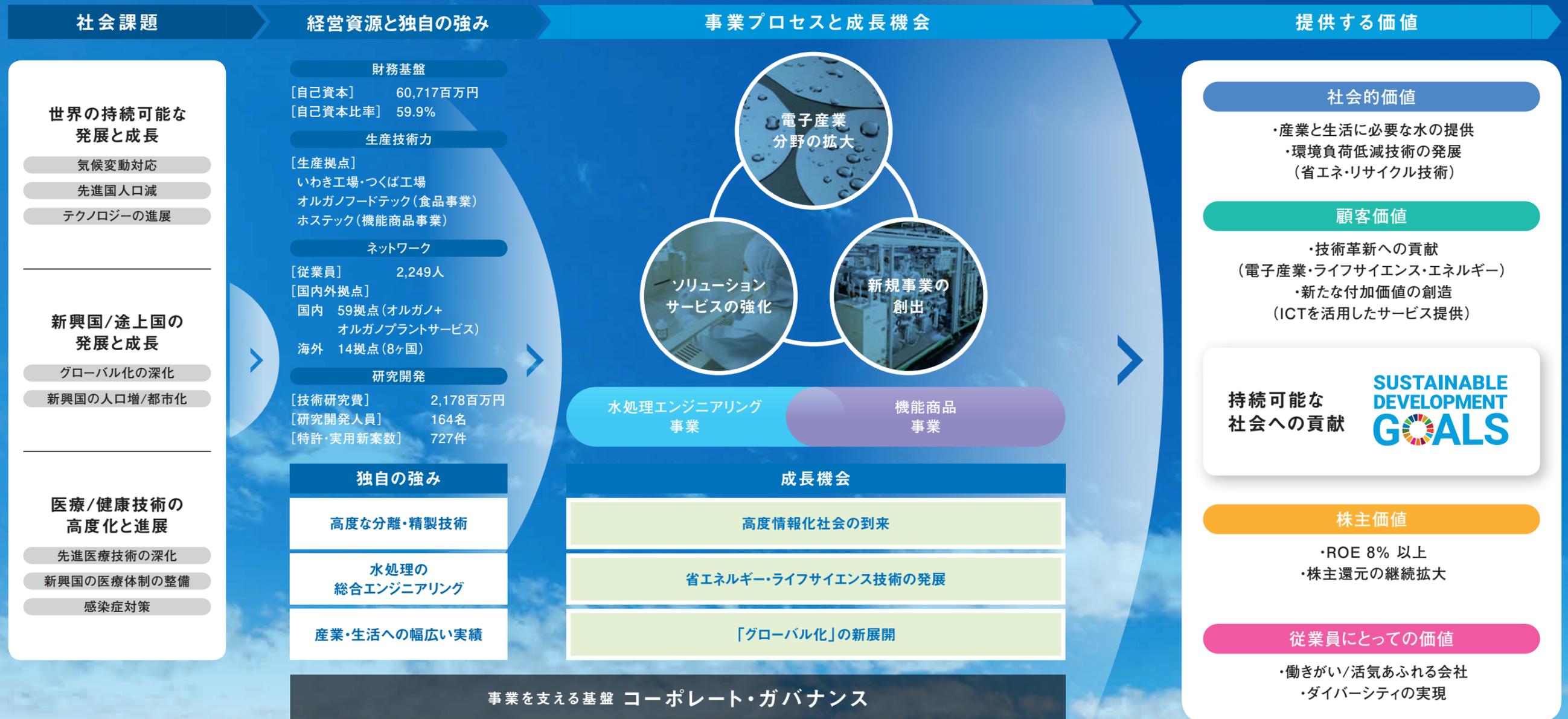


価値創造プロセス

水処理エンジニアリング事業をコアとしながら、オルガノの役割をさらに広げ、分離精製・分析・製造技術を強みとし、水以外にも事業領域と展開地域を拡大し、産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します。

〔 経営理念 〕

オルガノは水で培った先端技術を駆使して未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます



技術開発担当役員メッセージ



取締役常務執行役員
技術開発本部長

明賀 春樹

当社の技術開発戦略

当社のコア技術である「分離・精製技術」の研究開発は、既存事業の深化、新事業の展開に不可欠なものです。中期経営計画の重点分野である電子産業では、刻々と回路の微細化が進み、半導体製造プロセスにおいては不純物が極めて少ない超純水が求められています。これに応え、さらなるシェア拡大のためには次世代型超純水設備の開発を絶え間なく進める必要があります。今後さらに重要性が高まる排水処理、排水回収分野へも継続して新技術投入を行います。また、お客様課題解決につながるソリューションビジネスでは、設備の効率運用のため、IoTやAIなどのデジタル技術活用基盤を整備し、自律制御や予兆検知、需要予測などを組み入れた水処理装置開発にも注力しています。もちろんこれらのライフサイクルでの省エネ、省資源、温暖化ガス排出抑制も重要な項目です。大型装置を計画・設計するエンジニアリングにおいては、今後の海外需要の高まりとコストダウンに対応する体制構築を目的とするグローバルエンジニアリングセンター構想を具体化し、2021年度の設立を予定しています。

事業領域拡大のための新事業創出では、バイオ医薬・リチウムイオン電池向けの精製設備、電子材料の高度精製技術開発など、従来の水処理以外への精製技術応用と実用化への開発を推進し、新たな分野を通じた産業と社会の価値創造へ取り組んでいます。

技術開発動向

(既存事業拡大につながる差別化技術の拡充)

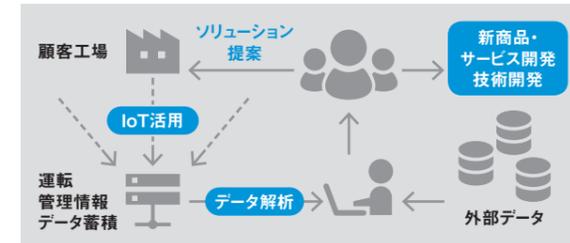
半導体の微細化への対応として、超純水の評価に必須な微量金属や10nmレベルのパーティクル(微小粒子)の分析技術を高度化するとともに、さらなる水質の高純度化技術の開発を推進しています。また、循環型社会の実現に向け、お客様工場内で純水や超純水を用いた後に、排水処理設備と水リサイクル設備、有価物回収設備によって水や有用資源を再利用するニーズはますます高まっており、良質な水の確保と水環境保全を両立させ、さらに有価物の再利用を効率的に行う技術の高度化も重要な課題であり、機能・性能の向上は目

指す戦略のひとつです。例えば、開発製品であるエコクリスタは、排水中のフッ素を合成蛍石として回収して、フッ酸原料に再利用するというサーキュラーエコノミー(循環型経済)にも貢献する技術で既に実用化しています。

メンテナンスの最適化や省力化にはIoT/AIなど最新のデジタル技術活用によって予防保全などの機能を拡充することが合理的です。遠隔監視やリモート管理も含めた新しいサービスやソリューションを拡大するため、デジタル技術活用による設備運転データの収集・解析を行うデータセンターの創設を計画しています。



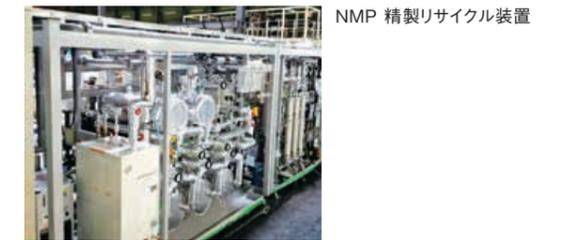
データセンター創設イメージ



新規事業の創出

新事業創出に向けて必要な技術は、必要に応じてオープンイノベーションによる外部シーズとの連携を図り開発を加速します。これまでの水処理以外の分離精製では、焼酎原料の精製や砂糖の精製など、長年にわたり暮らしに身近な製品での実績がありますが、新分野で分離精製技術を適用するビジネスとして、半導体製造用レジストなどの電子材料の精製や医薬品製造分野への展開を積極的に推進しています。バイオ(抗体)医薬品の精製工程への適用を図っている連続クロマト装置は、精製効率の向上が確認され、量産、工業化に向けて海外研究機関との連携などによりトータルシステムとしての開発を進めています。また、エネルギー問題や温暖化ガス排出

抑制を背景にEVやハイブリッド車への搭載が進むリチウムイオン二次電池向けでは、二次電池製造過程で用いられる溶剤NMP(N-メチルピロリドン)の精製技術をメーカー工場実証テストし、早期の実用化を目指し完成度を高めています。



NMP 精製リサイクル装置

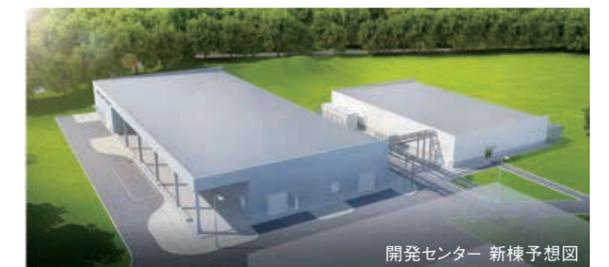
事業拡大を目指した技術開発投資

グローバルエンジニアリングセンターの設立

水処理プラントの生産キャパシティ拡大と技術力強化、コストダウンを目指した新たな拠点をASEAN地区に設立する計画を進めています。技術者間の連携と将来に備えた計画的な人材育成を図り、国内外事業比率の変化や市場変化に柔軟に対応できる体制を整えることで、技術レベル、品質、安全、サービス、コスト面においてグローバルに対応できる技術基盤を構築します。

開発センターへの新実験棟建設

中期経営計画のさらなる強化を目的として、電子産業向けの次世代型超純水装置や溶剤・薬液などの分離精製技術の研究開発のための新実験棟2棟を神奈川県相模原市の開発センター内に建設します。投資総額約30億円で2022年4月の稼働開始を予定しています。



開発センター 新棟予想図

財務担当役員メッセージ



取締役常務執行役員
経営統括本部長兼経営企画部長

須田 信良

財務戦略の基本方針

オルガノグループでは持続的な企業価値の向上と収益性改善の達成状況を評価するため、ROEと売上高営業利益率を重要な指標として位置付けています。前期は比較的採算性の良い案件の売上が集中したこともあって収益性に大幅な改善がみられましたが、市場の設備投資水準や大型プロジェクトの動向が業績に大きな影響を与える体質の改善には至っていないと考えています。中期経営計画では電子産業分野の拡大に取り組むとともに、ソリューションサービスの強化や新規事業の創出に取り組み、ROE・売上高営業利益率とも安定的・継続的に8%以上を計上できる体制を目指していきます。

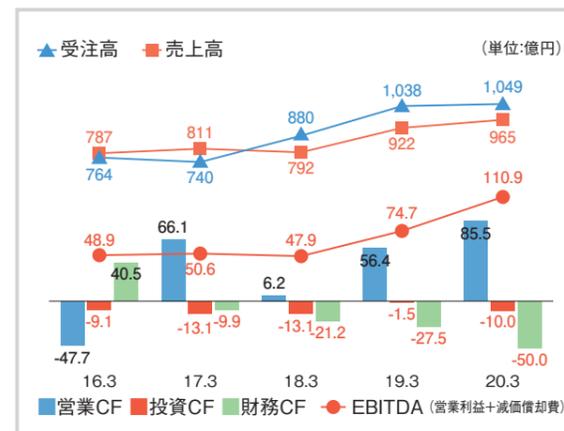
○ 同業/市場平均との比較表

ROE	=	収益性	×	効率性	×	レバレッジ
		当期純利益率		資産回転率		財務レバレッジ
19.3期 8.4%		19.3期 4.8%		19.3期 0.93%		19.3期 1.85
20.3期 12.4%		20.3期 7.4%		20.3期 0.95%		20.3期 1.75

・比較的採算性の良い案件の売上が集中し、収益性が大幅に改善
 前期までの水準では収益性に見劣り
 ・効率性、レバレッジは適正な範囲内

収益性の改善に取り組み、ROE 8.0%以上を安定的・継続的に
 継続できる財務体質を確立する

○ キャッシュ・フローと業績



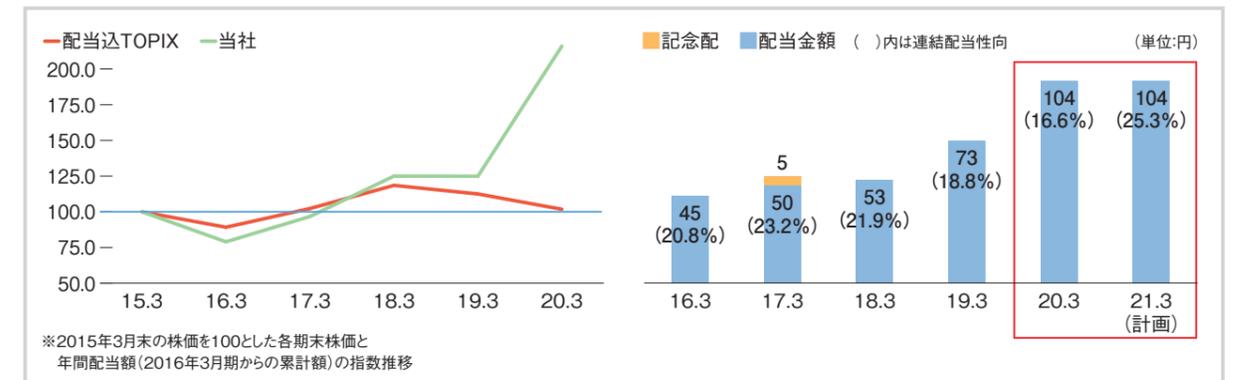
資金の調達については、事業に必要な流動性と資金の源泉の安定的な確保が基本方針です。短期の運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入、設備投資や長期の運転資金は金融機関からの長期借入を基本として考えています。

当社のキャッシュ・フローは、受注した大型プロジェクトの工事進捗や代金の回収スケジュールに影響されます。一般的に規模の大きなプロジェクトほど回収・支払サイクルが長くなる傾向にあり、業績の動向から半年～1年程度遅れてキャッシュ・フローが変動する場合があります。また、ソリューションビジネスの一環として、客先の工場・施設内に当社が水処理設備を保有してサービスを提供する「水売り」型のサービスにも取り組んでおり、この場合には多額の建設資金を当社が一時的に負担することになります。このため、当社はキャッシュ・フローの変動に備えた財務基盤の構築と安定的な運用に取り組んでまいります。

現状の評価

2020年3月期は売上・利益とも過去最高を達成する好決算となりました。これに伴い配当金についても過去最高となる1株当たり104円の配当を実施しています。財務状況も改善がみられていることから、新製品・新技術に向けた開発の強化や海外での事業基盤の拡大など、さらなる成長に向けた積極的な投資を行うとともに、成長と連動した株主還元を拡大を進めてまいります。

○ 配当金・配当性向+株主総利回り～5年間



資金使途の考え方

中期経営計画で重点分野として掲げる「電子産業分野の拡大」、「ソリューションサービスの強化」、「新規事業の創出」に向けて積極的な投資を進めるとともに、株主還元の拡大を図ります。投資の面では、特に技術研究費について売上高比率の2.5%を目安として拡大を計画しており、開発センターの機能強化や新製品・新技術の開発に取り組んでいきます。また、IoTやAIなどICT技術を活用したエンジニアリング業務の効率化や新たなソリューションサービスの開発、グローバルエンジニアリングセンターの設立や、営業体制の強化など海外での体制・人材育成に向けた投資などを拡大していく方針です。またお客様のニーズに応じ、「水売り」サービスを提供するケースも想定しています。

株主還元の考え方

株主還元につきましては、安定的かつ継続的な配当の実施を基本方針としたうえで、収益の状況を勘案した利益配分に努めており、内部留保資金については持続的な成長に向けた事業投資や研究開発投資などに活用しています。

配当金額については記念配を除き5期連続の増配を続けており、今後も可能な限り増配を継続すること、配当性向につきましても業績の動向を踏まえつつ改善を図っていくことを考えています。

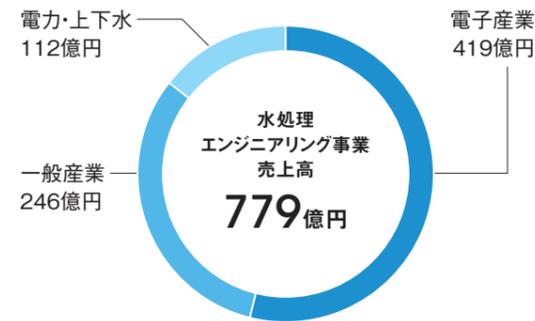
事業概要

オルガノは超純水・純水・水道水・産業排水・下水と幅広い水処理技術を有し、多種多様なお客様に対して、幅広く事業を展開しています。また、製品開発、設計、施工、販売、納入後のメンテナンスまで自社で一貫して対応が可能な体制を整えています。

水処理 エンジニアリング 事業

▶P.25へ

各種の生産工場や発電所、上下水道設備などで利用される水処理設備を提供しています。世界トップレベルの純度を誇る超純水の供給から、水のリサイクル設備や有害な排水を無害化する各種の排水処理設備など、総合水処理エンジニアリング会社として事業を展開しています。



プラント事業

多くの産業、国々で培ってきた高い技術力で最適な水処理システムを提供

ソリューション事業

設備の運転・管理・改善などお客様のニーズに寄り添ったソリューションを提供

電子産業

半導体 FPD 電子部品

半導体や液晶パネル、電子部品などの洗浄用水として超純水が利用されています。工場排水の浄化や水の再利用、フッ素など有価物のリサイクルも実現。

一般産業

医薬/化粧品 食品/飲料 機械/化学

製品の原材料や洗浄などに利用される純水の供給や、工場排水の浄化や水のリサイクル設備の他、糖類や焼酎などの精製にも当社の技術が活躍しています。

電力・上下水

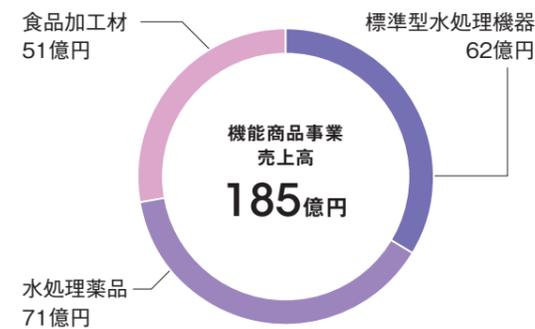
発電所 浄水場 下水処理場

浄水場・下水処理場や発電所向けの水処理設備を手掛けています。火力・原子力発電所の水処理設備では高いシェアを有しています。

機能商品事業

▶P.27へ

各種の生産工場や商業施設、医療・研究機関などに標準型機器・フィルター、水処理薬品、食品加工材などの機能商品を提供しています。主に国内向けにビジネスを展開してきましたが、医療機関向けの小型純水装置や電子産業向けの水処理薬品など台湾や中国など海外に向けた事業展開の強化に取り組んでいます。



標準型水処理機器

医療・研究機関で活躍する小型の純水装置や、各種の工場や自販機・コーヒーマシンなどで活躍する浄水フィルタを提供

医療/研究 各種製造業 飲食/コンビニ

水処理薬品

各種の工場や商業施設などの冷却水処理やボイラ用水処理、排水処理などに利用される各種の水処理薬品を提供

各種製造業 ビル/商業施設

食品加工材

加工食品や飲料の原材料として利用される食品添加剤の提供や、健康食品・介護用食品に向けた原材料の加工技術を提供

食品加工 飲料製造 介護/健康食品

水処理エンジニアリング事業



取締役常務執行役員
プラント本部長兼プラント事業部長

中山 泰利

半導体製造工場の製品歩留まり(良品化率)に影響する水処理設備は高純度、大水量かつ複雑なシステムでありながら長期安定稼働が必須な設備であり、また年々進歩する製造プロセスへの対応力が求められます。高品質、短納期、低ランニングコストはもちろん、運転管理の省力化や省エネルギーにも配慮したシステム提案も欠かせません。プラント納入後のメンテナンスなどにおいても、お客様視点の課題解決や社会との共通価値創出への取り組みを推進することが重要です。受注済みプラントの効率的な設計・製造とともに成長分野である5G、DXなどの付加価値の高い先端産業や私たちの暮らしに欠かせないインフラ分野、医薬品製造分野を含めた各種産業のパートナー企業として求められるシステムやサービスを提案・供給し続けます。

● 事業内容

プラント事業

当社の提供する水処理プラントは、お客様の仕様に基づいてオーダーメイドで設計を行います。受注にあたっては競争入札となるケースが殆どですが、価格面の競争だけではなく、お客様のニーズや課題の解決に向けた共同実験の実施や新たな技術の提案など、計画の初期段階における効果的なマーケティング活動が受注確率や採算性に影響を与えます。特に電子産業分野では水処理設備の規模が数十億円を超える大型のプロジェクトも多く、技術面でも非常に純度の高い超純水や製造工程で使用されるフッ素など有価物や水のリサイクル技術、排水の無害化・浄化など高いレベルの技術が要求されます。このため、中期経営計画では主要市場である「電子産業分野の拡大」を重点分野として掲げ、最先端の半導体技術に向けた研究開発の推進や、投資の拡大が続く中国などの新たな市場への展開を進めるなどマーケティング活動の強化に取り組んでいます。

ソリューション事業

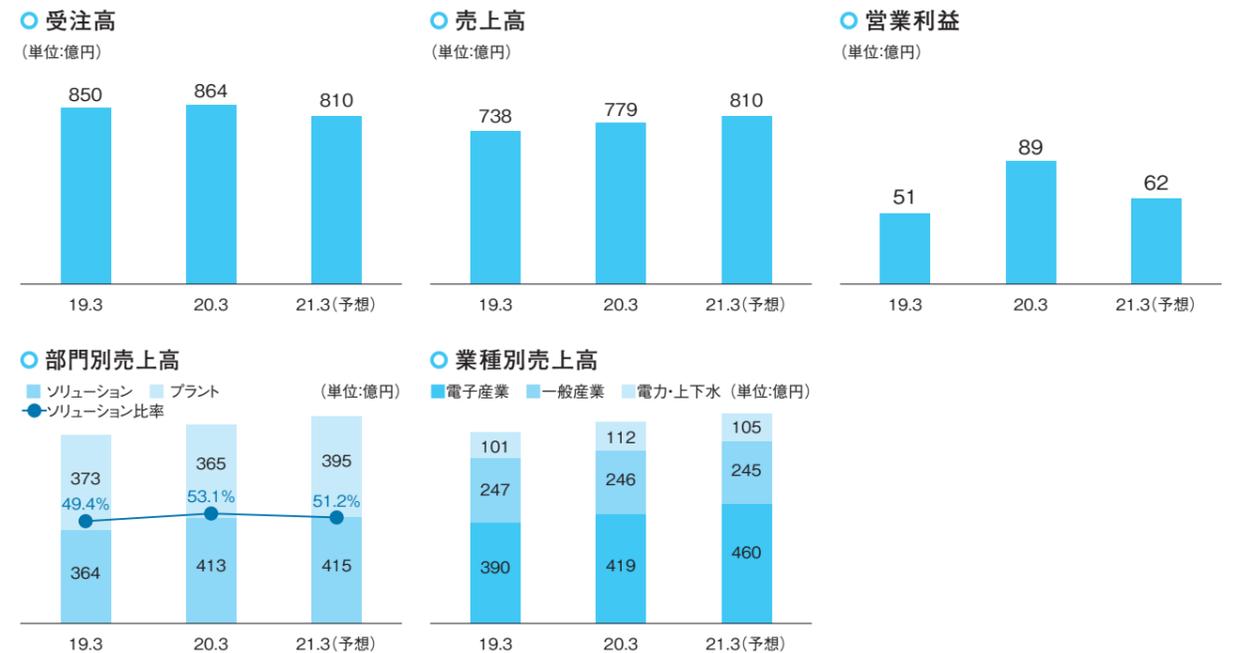
プラントの納入後は運転管理やメンテナンス・定期点検などのソリューションサービスの提供が中心になります。多くのお客様が既存の設備の改造・増強といった形で投資をされますので、ソリューションサービスを通じたマーケティング活動は新たなプラントを受注する重要なポイントとなります。また、設備投資の動向に左右されるプラント部門に比べ、ソリューション部門は安定した業績が期待できます。最近では運転コストの削減や省力化、リモートでの設備管理などに対するお客様のニーズも高まっているため、中期経営計画では「ソリューションサービスの強化」を重点分野として注力し、IoTやICT技術を活用した新たなソリューションサービスの開発や進展著しい台湾・中国など海外でのソリューション体制の強化などの取り組みを進めています。

● 2019年度の業績

2019年度は台湾での先端半導体投資に加え、国内で過去最大規模の半導体プロジェクトを受注するなど電子産業分野を中心にプラント部門が好調だったことに加え、設備の改造・改善提案やメンテナンスなどのソリューションサービスも好調に推移したことから、受注高・売上高とも2期連続で過去最高を更新する結果となりました。利益面では国内外のプロジェクトにおけるコストダウン効果や、比較的利益率の高いソリューション部門の売上拡大によって採算性が大きく改善し2006年度以来の過去最高益を達成しています。

● 2020年度の見通し

コロナ禍による影響で先行きの不透明感が非常に強い状況にはありますが、台湾・中国では半導体関連の活発な設備投資が続いており、国内でも生産水準は高いレベルにあるなど電子産業分野は堅調に推移しています。一般産業分野では国内・東南アジアなどで設備投資を抑制・延期する動きがみられていますが、メンテナンスなどソリューションビジネスは堅調に推移しています。電力・上下水など公共インフラ部門も前期並みの推移が期待できます。2020年度は前年までに受注した案件の工事進捗によって、当社にとっては初となる売上高1,000億円の達成を計画しています。利益面では受注環境などの影響で利益率の低下を想定していますが、各種のコストダウン施策や顧客への提案活動によって利益率の改善を図ってまいります。



TOPICS ● **ソリューションサービスの強化**

お客様にさらなる価値を提供するため、既設のメンテナンスなどのソリューションサービスを強化しています。

IoTを活用したサービスメニューの開発や海外でのアフターサービス網の整備など新たな取り組みを進めています。



メンテナンス



IoTによる維持管理

機能商品事業



取締役常務執行役員
機能商品本部長

堀 比斗志

機能商品事業は標準型機器・フィルター、水処理薬品、食品加工材、分離精製用機能材を中心に国内外で展開しています。オルガノの原点ともいえる標準型機器は、初の国産機器として、研究分野、医療分野などへ展開し、フィルターは、「おいしい飲料」には欠かせない水を提供する材料として評価されています。薬品はセンサー、情報技術を媒介して装置との組み合わせにより、効果的、効率的な薬効管理の取り組みを進めており、高い評価を受けています。食品事業は、調製・混合・成形技術を駆使して、介護向けなどの機能食品分野で伸長しています。機能材は、エンジニアリング事業、ソリューション事業において、お客様のニーズに広くお応えできる材料を供給しています。機能商品は、長らく国内中心のビジネスを進めてきましたが、最近では海外向けラインアップの強化を進め医療機関用小型純水装置や電子産業向けの水処理薬品分野で台湾・中国などの海外市場への展開を強化しています。中長期的には機能商品事業の売上比率を現在の20%程度から30%程度にまで引き上げることを目指しています。

● 事業内容

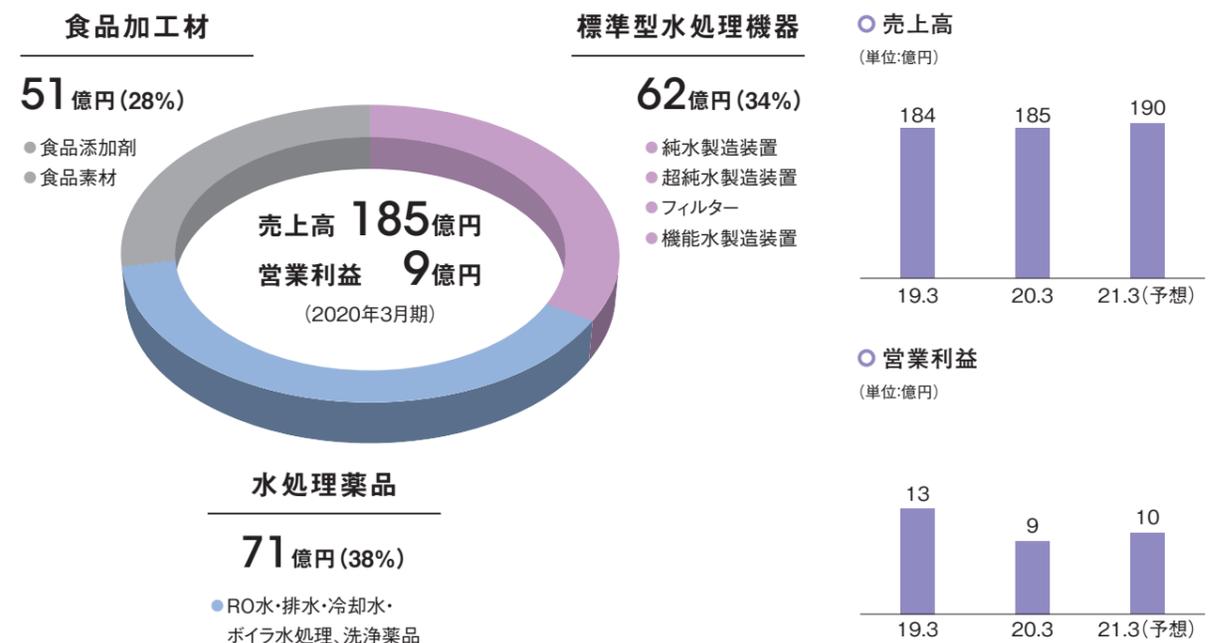
	標準型水処理機器	水処理薬品
標準型機器	<p>標準型機器分野では、医療・検査機関、研究機関などに向けた小型純水装置の商品ラインアップ強化を進めています。これまで欧米メーカーが先行していましたが、国産メーカーとしての信頼度を活かし、ライフサイエンス技術の進展や新興国での医療設備の発展に伴い成長が見込める市場への取り組みを強化しています。需要が拡大する中国での営業体制強化を進めており、さらなる発展を目指します。</p>  <p>ビューリック・ピュアライト aシリーズ</p>	<p>水処理薬品では、当社がエンジニアリング事業で強みを持つ電子産業分野向けに注力し、新商品・新技術の開発や台湾・韓国など海外市場での展開に取り組んでいます。最近では当社が開発した半導体工場や海水淡水化設備などで使用されるRO膜用の殺菌剤が大きく成長しており、国内をはじめ中国・韓国・ベトナムなどで実績が広がっています。中期経営計画ではセンサーや情報技術を駆使して、水処理プラントに対するソリューションサービスとの一体的な取り組みを進め、お客様の水処理設備に対する総合的なサービスを強化していきます。この取り組みが評価され、2020年度の省エネ大賞を受賞致しました。</p>
フィルター	<p>フィルター分野ではコンビニエンスストアなどでのコーヒーマシン向けの浄水フィルターが大きく成長しています。従来は各種の工場や自販機・飲食店などのディスペンサー向けが主力でしたが、コーヒーやお茶、料理に用いられる「だし」など、目的に応じて最適な風味を抽出する水を提供するフィルター技術が注目を集めています。</p>  <p>オルガノフィルター D-4D</p>	<p>食品加工材分野では、介護用の食品や健康食品向けの用途で粉体を顆粒化する造粒技術で高機能化を推進しています。顆粒化することでダマにならず液体に溶けやすくなるので、とろみが付けやすく、飲み込みやすい・誤嚥などを防ぐ効果が期待できます。</p>

● 2019年度の業績

2019年度は一部の顧客で工場の統廃合や輸出の減少に伴う工場稼働率の低下などが影響したものの、海外での標準型機器や水処理薬品が好調に推移し微増ながら売上増を達成する結果となりました。

● 2020年度の見通し

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、期初は特に自動車・外食・医療機関向けの販売が大きく影響を受けましたが、電子産業向けの水処理薬品が堅調に推移したことに加え、除菌・消臭用の微酸性電解水であるオルプラスの販売が好調に推移したことなどから売上が回復し、期初計画並みの仕上がりを想定しています。



TOPICS ● 水処理薬品部門の海外展開

当社は市場規模が大きく、今後成長が見込まれる東アジアを中心にお客様工場の運用効率化につながる水処理薬品の拡販に取り組んでいます。

中国、台湾、東南アジアにおける海水淡水化や排水回収に用いられるRO膜処理装置向け薬品などの営業活動を強化し、2021年度に海外売上高16億円の達成を目指します。

